

令和6年第12回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和6年12月20日（金） 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者 齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監、小野寺堅一 課長補佐
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和6年第11回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
丹羽委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
 - (1) 一般事務報告
報告第10号 令和6年第4回大河原町議会定例会（12月会議）の結果について
小野寺専門監、齋生涯学習課長より説明。
一盃森委員 | P4「休日地域クラブ活動」という名称を初めて聞いたような気がする。
小野寺専門監 | スポーツ庁の方からも名称が出ておりまして、「地域クラブ活動」という名称を一般的に扱っているんですけども、大河原町では平日と休日を分けて認識していただくために、「休日地域クラブ活動」というふうに今のところ読んでおります。
 - 報告第11号 大河原町教育委員会教育委員の任命について
小野寺専門監より説明。
 - 報告第12号 工事請負契約の変更契約の締結について
（金ヶ瀬小学校校舎・屋内運動場外壁ほか改修工事）
小野寺課長補佐より説明。

(2) 専決事務報告

報告第6号 専決処分の報告について

(令和6年度大河原町一般会計補正予算(第7号))

教育総務課課長補佐、生涯学習課長より説明。

8 議 事 なし

9 その他

(1) 教育長報告

1 いじめ問題

(1) よみうり寸評「いじめ」〔読売新聞 R6.9.15〕

作家の山田詠美さんが中学校のときに、クラスメイトからいじめられて、その担任の先生の言葉に傷ついたというような話が載っていた。

いじめ防止法で、いじめの定義が広がったことで、些細なことも認知するようになり、子供の自死という悲惨な状況は避けられてきているという捉えかたですが、非常に難しい問題も出てきている。

やはり初期対応が大事である。加害、被害の両者からしっかりと聞きとり、記録しておくことが必要である。

(2) いじめ法の放置から11年(小野田正利)〔内外教育〕

1) 増える「先に」訴えた者勝ち

小野田先生の主張ポイントとして、いじめに関して、「先に学校に相談や通報」した方が、「被害者」として扱われるとか、子供同士の人間関係の摩擦やいざごは成長に欠かせないものだが、大人が全部処理する形になるなど。やはり学校と連携を図りながら、その辺のところを注意してやっていく必要がある。

2) 「重大事態調査ガイド」改訂でさらに混乱

重大事態調査ガイドが改訂されまして、さらに悪い方向になったのじゃないかというようなことを言っている。小野田先生は言う。「いじめ法は、そもそも誰もできないことを学校にすべて押し付けている、と考えざるを得ないものである。」納得できる主張である。

3) いじめ重大事態の調査に関するガイドライン改訂の概要

文科省から出されたガイドラインの概要版。詳細な事実の確認の重要性とか、事前説明の手順が示された。

(2) 『いじめとは何か』(森田洋司) [中公新書]

いじめ研究の第一人者。やはり、日本の児童会・生徒会活動、これが大事なんだということで、子供の中で話し合うことがとても大きな意義があるんだということが書かれている。町全体で取り組んでいけるようにしなくてはいけないと思っている。

それから、被害を受けたことを教師に相談するのは4分の1程度だが、教師のいじめられていることを知っている割合は海外と比較して高く、評価すべきである。

社会全体で、やはり「やわらかな行為責任」で、みんなが責任を持って、いじめに対応していく必要があるということでもまとめられている。

2 「数学的な見方・考え方と子供のつまずきの解消」(笠井健一)

宮城県の算数・数学の正答率が全国最下位。先生方は一生懸命やっているが、分からない子が分からないままである。分からない子が分かるような対話が大事。

やはり国の方でも今、こここのところを、重点に指導してほしいとっており、ICTはほとんど出てきてないという話である。

人間の関わりの中で、子供たちが成長していくという、そういう授業を目指してほしい。つまり協働的な学びを中心にしてほしいというようなことである。

3 『子どもと教室の事実から学ぶ』(佐藤雅彰他) [ぎょうせい]

「リレーの授業」。バトンを上手につなぐことではなく、「前走者の速さをつなぐこと」という発想が面白い。このようないろいろな授業の工夫が書かれている。教師の仕事の楽しいところかなと思う。

4 『世界基準の英語力』(細田真由美) [時事通信社]

著書の細田真由美先生は、さいたま市の教育長を6年間務められ、さいたま市の英語力を全国トップクラスにした方である。

本当に英語に力を入れており、授業時数も、英語の授業時数が小学校で全国の2倍で、中学校は3年間で標準時数より51時間多いとかですね。

細田先生が「フォニックス」ということを取り入れているってことを書かれています。この「フォニックス」は、発音とスペルの関係性に、規則性がある。例外もありますけど、それを学ぶことによって、英語の発音が容易になるというようなことで、宮教大の田端先生からですね、この「フォニックス」に関する指導を今年、中学校でしていただいています。来年は小学校でしていただく予定になっています。

やはり、市挙げてお金を出して英語能力の向上に努めていることが分かる。これだけ徹底しないと無理である。お金をかけず、各学校に任せたら先生方潰れてしまう。

ですから、それだけ覚悟を持ってお金を投入するということ、この本を読むことによって分かったような気がします。

5 教育諸課題

(1) 不登校のきっかけ (内田良)

いじめによって不登校になるきっかけは、上から14番目。一番多いのは、不安、抑うつ、つまり精神的な疾患、それが76.6%でトップ。そしてあと学業不振も47%である。精神疾患の方は、医者の方が必要であり、学業不振の方は、教師の仕事だと思う。

勉強に自信がないというようなことに手を差し伸べる必要があると思う。

(2) 豊かな体験が人をつくる (日比野克彦)

日比野克彦先生は、東京藝術大学の学長。子供の頃のエピソードが載っている。日比野少年の言動を肯定的に理解し見守ってくれている先生や同級生がいたことが、今の自分を創ったと言えるのではないかと。

(3) 広がる「学年担任制」の現状と課題 (中西茂)

学年担任制によって、時間外勤務時間が削減できる、子供たちの主体性が育まれるという声もある一方、無責任体制につながるという声もある。

(4) 体育館の冷房設置 18.9% (河北新報)

「学校施設への冷房設置」の河北新報の記事。体育館について、大河原町は設置がゼロ。体育館は避難所となることから、冷房装置は必要だが、壁に断熱材を入れないと冷房効果が高まらないことから、工事費用が高額となる。

6 その他

各種事業、研修会、会議、講演、授業の様子等について資料により説明。

丹羽委員 | 教育にはお金がかかる話がありましたけど、本当に外人の先生をお呼びするにしても、やはりお金がかかる。しかし、そういうものにどんどんお金をかけていただくのは、とても大事なことだと思う。

不登校のきっかけはびっくりした。原因について、いじめよりも先生の事の方が高いことです。これは大いに反省していただかなきゃいけないなと思いました。

いじめの記事について、やはり初期対応がもちろん大事ですけれども、その後も包み隠さず、年数が経ってても、こうやって、後々まで調べられるっていうことは、やっぱり問題がきちんと解決されなければ駄目なんだなっていうことを思いました。

白石市にある不登校の子が通う学校。私は、この南小学校と南中学校の一番いいところは、こころのケアセンターとか、〇〇学園とか、〇〇フリースクールとか、という言葉を使わないことですよ。

丹羽委員

南小学校、南中学校、つまり普通の学校と同じですよ。

もちろん、きぼう学園とか何とかっていう、そういう補足するような名前はあるかもしれませんが、普通の学校名で書いてある。

だから、どうしても何々スクールとか心のケアとか言うと、何が原因で学校行けないんだって色眼鏡で見ってしまう風潮があると思うんですよ。大人はそういうものが必要ないと私は思ってるんですよ。

何でかって言うと、誰でも不登校になり得る。先生が示していただいた資料を見てもそうですし、だから別に不登校になったって当たり前なんだっていう考え方が、これからは皆そういうふうな受けとめ方しないと差別的なことになりかねない。

だから、その学校で学んでいる子供たちはそのまま普通高校に行けるっていうことは、しかも学校に通ってる子がほとんどだということになると、やっぱり教育のあり方で、生徒は変わるんだというようなことになるんじゃないかなって思いましたね。

とても素敵な学校だなと思いました。

そしてもう一つ嬉しい素晴らしいなと思ったのは、子供たちが、不登校生がいないってことは、ここに通っている子供たちの親は皆笑顔ですっておっしゃってました。

すごいなと思いました。

みんな不安になると思うが、親たちは笑顔になれてる。大河原町の近くに、南小学校、南中学校のようなどころがあるっていうことが素晴らしいな私は思いました。

これからもどんどん研修というか、学びの場であってほしいなってそう思いました。

舟山委員

いじめの問題。生きていく上で必ず生じていると思う。12ページのところを読んで、例えば子供たちが成長して行って成人になったときに、結局は世の中に出ればね、そういう場面にいっぱい出くわすわけですよ。

そういうときに、自分自身に、いろんな困難にも立ち向かったときに、自分自身が納得できるような解決処理方法みたいなのを、自分の心の中で育てていかないと私はうまく社会生活ができないんじゃないかなと。そういう気持ちを育てるのはどこかと考えた時に、親かなと思ったんですよ。

その生き方みたいなね。

自分なりにこういうときはこんなふうを考えればいいんだっていうような心を育てていくことが私は一番大事で基本なのかなとこれ読んで考えさせられました。

舟山委員	<p>今の子供たちが大人になったときに、そういう社会で生き延びていくための術をね、育ててあげてやらないと駄目なのかなってつくづく思ってしまいました。</p>
丹羽委員	<p>ますます先生方の力量が問われるというか、要するにモンスターペアレントのことも書いてありましたね。</p> <p>問題を抱えるのは子供たちだけじゃなくてむしろ、親の方がその子供をそのように仕向けてしまっているようなところがあるかもしれません。</p> <p>その親を変えることはできないわけで、どうすればいいか。我妻校長先生に申し上げたのは、「ここでこういう教育を子供たちが受ければ、子供たちは将来、より良い大人になれますね。」って私言ったんですよ。</p> <p>そうすることによって、より良い大人になるっていうことは、やがてこの子供たちが、もし家庭を持ったときに、より良い親になれますねって、つまり、先ほど先生方がこれからっていうことを言いましたけれども、より良い大人を社会人を育てるための、やっぱり、能力というか資質というか、そういうものをお持ちいただいて、豊かな心で子供たちの教育に当たっていただかなければ、将来は暗くなるだろうと明るい未来を築けないだろうっていう感じがしました。</p>
一盃森委員	<p>いじめの事。社会的責任能力を子供に身につけさせなければっていう論調なわけけれども、大人も含めて実は、どうも今の日本の世の中は、責任を取らない。取りたがらない。というか、誰かがやってくれるのを待つみたいなところが在るのではないかっていうふうに思ったわけですよ。</p> <p>いろんなクレームだとか、いろんな意見があるがために、例えば学級担任であれ、その学年の主任であれ、教員生命をかけて、俺はこう思うんだから、こういうふうにしなきゃいけないっていうかね。</p> <p>子供に、あるいは親に舟山先生のお話じゃないけれどもね。こういうふうにしなきゃ駄目だって言い切れるっていうか言い切るっていうのが、あまりにも少なすぎるんじゃないかなって思うんですよ。</p> <p>冒頭のお話しにもありましたが、いじめについては初期対応が大切だと。その初期対応すらおろそかにしてるんじゃないか。</p> <p>やんなきゃいけないことをやらないで、誰かがいつかどこかで片付けてくれるんじゃないのかってね。</p> <p>やはり教師だって、それをかけて、子供の前に立たなきゃ駄目だというふうに思うんですよ。</p> <p>私はねそれが一番足りないかなって思う。学力向上のことについても、いろ</p>

一 盃 森 委 員

いろ教育長さんからもこうやって資料を丁寧に出していただいて先生方は、知ってるわけですね。

知識としては持ってるんだけど、実際子供の前に立って、その知識、得たものを情報を具体的な形として言葉として態度として、子供に提示しているのか、そういうふうな姿勢で子供に接してるのか、そういう先生がどれほどいるのかなっていうことは懸念します。

子供たちに考えさせて、それで親御さんも巻き込んでっていうふうな形で、やっぱり子供が主役にして、そういうふうなことを何とかできないのかなっていうふうに思っ。例えば、金ヶ瀬小学校で道徳一斉の話がありましたけど、そういうふうなときに、それぞれの学年、クラスで、親御さんと一緒に、いじめのことを取り上げて考えてみるだとか。やはり教師だと思う。

学力向上のことについても、多分似たようなことがあるかなって本当に思うんですけどね。

日比野先生の話。体験があるっていうのも、全くその通りだなって思うんですね。やっぱり学校で教えてもらった身につけたことを活用できるような形で、体験を経験を積み重ねたいですね。

片 倉 委 員

さいたま市の英語がすごいなっていうふうに思いました。大河原町も予算や人材確保など後押しがあればいいなと思っ。小学生で、今以上に英語に慣れ親しんで、コミュニケーションを取れたり、自信がつくと、興味も湧く子供たちが増えてくれるんじゃないかなと思っ。

あとはやはり、書いたり読んだりのインプットを楽しみながらできたりしたら、中学校での授業でもだいぶ差が埋まってくるんじゃないかなと思っ、好きな人だけじゃなくて、小学校からもうちょっといっぱいやってほしいと思っ。

子供たち見ると結構勉強はすごい好きな感じはするので、大河原町の子がもったいないと思っ見てました。授業参観とか行くと他のクラスも見たりするんですけど、みんな結構積極的に授業参観でも、手挙げたり喋ったりしてるのも見て、何か不登校のことが感じられないような授業風景というか。さいたま市のように、英語も力を入れてほしいなと思っ読みました。

丹 羽 委 員

一盃森先生がおっしゃいましたけれども、その後の生徒の周りの目が変わると、子供が変わりますよね。

絶対変わるんですよ。必ずプラスになるんですよ。

いいところをどんどん伸ばしてあげると、伸びてくるんだと私は思っ。お前駄目なんだろうなって言ったらアウトですね。

丹羽委員 | やっぱり先生って大事なんだなって思いますね。大河原に関わる先生方には頑張っていて、子供が笑顔になって先生ありがとうって言われたらどれほど先生嬉しいか。これはお金じゃ買えないんですよやっぱり。

(2) 各課長報告

教育総務課学校教育専門監、生涯学習課長

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年1月15日(水)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後4時00分

令和7年1月15日

署名委員

署名委員